

第2回瑞穂町地域公共交通会議

1. 開催概要

日 時：令和2年6月30日（火）13：30～14：35

会 場：瑞穂町役場 4階 全員協議会室

出席者：

No	所属	役職	委員氏名
1	瑞穂町	副町長	栗原 裕之 ★
2	日本大学 理工学部 土木工学科	教授	大沢 昌玄 ☆
3	瑞穂町寿クラブ連合会	会長	中村 憲一
4	特定非営利活動法人みずほまち精神保健福祉会 地域活動支援センターひまわり	施設長	大屋 敬則
5	公募（町内在住）		小暮 彰
6	公募（町内在住）		徳永 道子
7	立川バス株式会社	運輸営業部 旅客サービス課課長代理	吉川 武士
8	西武バス株式会社	運輸計画部計画課長	新井 淳一
9	東京都交通局	自動車部計画課長	島崎 健一
10	横川観光株式会社	代表取締役社長	山口 和彦
11	武州交通興業株式会社	事業部部长	濱田 興紀
12	一般社団法人東京バス協会	乗合業務部長	依田 修
13	国土交通省 関東運輸局 東京運輸支局	運輸企画専門官	堀越 千秋 代理：藤本 義章
14	立川バス労働組合	執行委員長	土岐 雅人
15	国土交通省 関東地方整備局 相武国道事務所	計画課長	内山 淳二 代理：富澤 敦
16	東京都 西多摩建設事務所	管理課長	高橋 一広
17	福生警察署	交通課長	大成 浩司

★：会長 ☆：副会長

傍聴人：9人

次 第

1 開会

2 委員交代報告

3 議事

(1) 福祉バス再編に向けた運行計画の考え方

(2) その他

4 閉会

2. 議事録

(1)福祉バス再編に向けた運行計画の考え方

【副会長】

今回、デマンド型交通を導入するときには、地域の方々にデマンド型交通について説明が必要である。乗合いであるがタクシーのように個人のみでの運行になることもあり、運行費用が上がり長続きしないこともある。デマンド型交通とコミュニティバスのパターンについて意見交換会で説明し、ご意見をいただいてほしい。また今後運行したときに、住民の方々がどんなシステムなのか分からなくて利用できないというのが一番の不幸であるため、システムについて皆様からご意見をお寄せいただきたいと思う。公共交通は地域の皆様に盛り立てていかないと厳しいのではないかと思う。運行するからには当然乗っていただき、今までは外に出掛けたくても出掛けられなかったのが移動システムのおかげで外出できて幸せになったとなるように、地域の皆様に盛り立てていただくことが重要である。

【委員】

地域住民との意見交換会の位置づけと行程について教えていただきたい。

【事務局】

住民との意見交換会は、7月12日、15日に予定しており、本日までの会議における内容や分析、見直し方針等について、あらためて本日のような提示を住民にさせていただき、そこで意見交換を行わせていただく。なお、各パターンにあるコミュニティバスの運行にあたっては警察や運輸局等の関係機関との協議が必要となるので、必ずしも本日お示しした実証実験のパターンになるとは限らないのだが、その辺りも含めてお話をさせていただいて、いろいろな意見をいただきながら新たなパターンを構築させていただきたい。

【委員】

距離を短縮することで増便の可能性があるというのは非常に重要なことだ。地域の皆さんからは使いたいの自分の家の近くを通してほしいやこの場所に立ち寄ってほしいという意見をいただく。ニーズとしては非常に重要であるがその要求を全て飲んでしまうと、当然ながら距離は長くなり、結果的に使われなくなってしまう。運行本数が少なくなり、不便となって使わなくなる、という負のスパイラルになってしまい、どんどん廃れていってしまう。住民のニーズを汲み取りつつも、財政的な要因、物理的な距離の要因、複雑に絡み合う諸条件の中で最適解を導いていただきたい。運賃や評価基準については、ルートや運行回数などと絡み合ってくると思う。地域の方に利用していただけるように盛り上げつつ、収支を改善していき、より運行効率が良く、便利になるようなルートを常に見直していくという不断の見直しが必要だ。

【委員】

コロナの状況次第で、今後会議が開催できなくなった場合、来年10月のスタートがさらに先延ばしになるのか。

【会長】

来年10月に実証実験をするというのは、令和2年の6月の段階の決定ということであり、それを目指すということである。現段階で確定というのは難しいが、来年10月に実証実験がスタートできるように、町としては最大限の努力をしていく。

【委員】

意見交換会で選択肢として、P8のケース①、①'、②の3つをお諮りするということなのか。

【事務局】

意見交換会の場で決定をお願いするわけではなく、ルート案に対して具体的な意見をいただき、その内容を踏まえ、今後の会議で皆様と協議を続けていく。

【委員】

三つのルート案以外も取り入れられるということか。

【事務局】

住民の皆様の意見を踏まえながら、最適解を見つけていきたい。

【委員】

P10で武蔵野地区のルートを見ると、八高線の東側は16号沿いのルートのみになってしまい、元カネマンの裏側の住宅地にはルートがないのはどういった理由なのか。

【事務局】

武蔵野地区は運行本数が多い民間バスが運行している。民間バスと競合しないようなルート設定している。また、八高線の東側は狭隘道路が多く運行するにあたり、安全面からルート設定するのは難しい。

【委員】

意見交換会の場所を教えてください。

【事務局】

7月12日の日曜日は10時30分から正午までは、元狭山コミュニティセンターの一階ホールを予定している。15日水曜日の14時30分から16時までは、長岡コミュニティセンターの一階ホールで予定している。15日水曜日の19時から20時30分までは、瑞穂町役場会議室2-1で予定している。

【委員】

デマンド型交通はタクシー形式なのか、ワンボックス形式なのか。

【事務局】

現段階では確定ではないが、タクシーで使っているようなセダンタイプ、またはワンボックスが想定される。事務局としてイメージしているのはワンボックスタイプで、隣の武蔵村山市の一定の地域で行っているデマンド型交通を想定しており、事前予約で、行き先は公共施設や商業施設、町内の施設を指定し、自宅まで行くが、行き先はこちらが指定した場所というイメージである。

【委員】

町民ランドやザ・モールみずほ等は指定されないのか。

【事務局】

商業施設等もポイントにしようと考えているが、詳細までは詰めていない。

【委員】

車両について、車椅子を使われる方が利用されるケースが出てきたときに、乗降しづらいと不便になる。サイズや容量等、道路幅員との関係もあるが、車椅子を使う場合の利便性も大事だ。

【委員】

車椅子の件については検討していただきたい。さらに、聴覚や視覚が不自由な方もいるので、介護の方が一緒に乗車していただける等についても考えていただけると良い。また、既存の福祉バスが運行しており、突然運賃等が変わっていくと、生活に支障が出てきてしまう。今まで利用されている方の割引の在り方や考え方、その対象者を少し広げていただくなども検討に入れていただきたい。元狭山地区等の駅からかなり離れている地域の方々の利便性を上げていただけるような交通やデマンド型交通を使っていきながら、補っていけるように検討していただきたい。

【事務局】

参考にしながら考えていきたい。割引についても、高齢の方や障がい者の方、現在福祉バスを使われ

ている方への割引は考えている。今後、皆様と一緒に協議させていただきたい。

【委員】

公共施設や商業施設へのルートを設定するという話があったが、町内の医療機関を通るコースを検討していただきたい。コミュニティバス等で病院に行ってもらえると利便性が高くなる。

【事務局】

平成30年度に行った利用者の意向調査でも、高齢の方の外出目的として買い物と通院が非常に多くあった。示しているルートの中でも医療機関の近くをなるべく通るようにしている。住民の方から、福生病院へ直接つないでほしいという意見があるが、そちらは町外であり、民間バス一本で行けるので、町外の医療機関までルートを設定するというのは難しいが、町内の医療機関についてはなるべく近くを通るコースを考えたい。

【会長】

高齢者や障がい者の方の移動支援を念頭において構成する必要がある、町内の医療機関は運行ルートの設定ポイントになると考えている。瑞穂町には隣の羽村市のはむらんというコミュニティバスが一部乗り入れている場所もある。また、元狭山地域では入間市のコミュニティバスが乗り入れしている施設もある。民間バス事業者の起終点となる場所も周辺にあることから、近隣市や民間バスとの乗り継ぎの情報を提供しながら、町内外の移動を確立していきたい。

(2) その他

【委員】

他地域のコミュニティバスのルートでは基本的に既存のバス路線があるところは通らないように運行しているが、瑞穂町はどうか。

【事務局】

なるべく民間のバスルートは運行すべきではないと考えている。

【委員】

コミュニティバスと路線バスは基本的には住み分けていくのが基本なのだが、ルート設定をしていくうえで重複する区間は出てきてしまう。重複が必要な区間についてはバス停を共有するなどルートを検討するのと同様に協議をしたい。

【委員】

デマンド型交通を採用した場合、住民がオーダーや配車をする場合に、ソフト等のツールはあるか。

【事務局】

現段階では詳細につめられていないが、実際に近隣でやっているところの話を知ると、システムを導入しているところもある。